

技が輝く

武州正藍染は、埼玉県の武州地域（羽生市など北埼玉地方）で、江戸時代後期に農家の主婦が家族の衣服をつくったのが始まりと言われ、二百年以上続く伝統的な手工芸品の一種です。平成二十年には地域団体商標にも登録されています。

武州正藍染の特徴・魅力

武州正藍染は、藍の葉からとった染料を自然発酵させて染め上げるのが特徴で、その技は「武州藍染技術」として県指定無形文化財に指定されています。時間と手間をかけて生み



藍の葉

出される手染めならではの美しさや、洗うほどにさめていく色味の風合いが魅力です。

藍染には糸の段階で染める糸染め（先染め）と布にしてから染める型染め（後染め）の二通りあり、武州正藍染は全体の七割が糸染め。丈夫で実用性に優れている点が支持され、全国の剣道着の約八割に武州正藍染が使われています。



埼玉県

武州正藍染

武州正藍染の今後

現在力を入れているのは、時代のニーズに応じた商品開発です。剣道着やハンカチなどの従来品だけでなく、ストールやデザイン性の高いTシャツ、地域のゆるキャラを使った小物入れなどさまざまな商品を作っています。また、地域団体商標への登録を機に、武州正藍染の名を全国に広めようとする動きも高まっています。

羽生市で百七十年続く武州中島紺屋の若手職人・新島大吾さんは、今後の目標を次のように語ります。「武州正藍染はまだ、『知る人ぞ知る』という状態。引き続き良いものを作り続け、少しずつでも人の目に触れる機会を増やし、幅広い世代の方々に武州正藍染の良さを知ってもらいたい。そのために、自社のホームページを充



実させたり、武州正藍染をアピールできる場に積極的に出て行きたい。」
伝統の技を実直に引き継ぎながら、時代の変化に応じた新たな取り組みを入れる職人たち。その手仕事によって生み出される伝統工芸品・武州正藍染を、是非、お手元に置いてみませんか。

お問い合わせ

埼玉県産業労働部観光課

TEL 〇四八―八三〇―三九五五